

第1章 平成15年度山口大学構内遺跡の調査

第1節 平成15年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市(吉田・白石構内)、宇部市(小串・常盤構内)、光市(光構内)の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の中に位置している。各構内の様相を概略すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落として県内でも著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物が出土する山口大学医学部構内遺跡・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落・遺物散布地である御手洗遺跡・月待山遺跡内に位置している。

このような環境の中、山口大学埋蔵文化財資料館は山口大学構内の埋蔵文化財を保護・活用する施設として、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、文化財保護法の諸手続の下、山口大学各構内が位置する地方公共団体(山口県および各市)の指導により、埋蔵文化財保護の立場から事前・試掘・立会の三種の方法で調査を厳密に行っている。これらの法に基づいた調査以外でも、「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する一部の大学関連施設(職員宿舎等)敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合には、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して資料館が確認調査を行っている。

また、山口大学内には埋蔵文化財資料館運営委員会(平成15年度当時)が組織されており、試掘調査等で埋蔵文化財が確認された場合は、埋蔵文化財のさらなる現状変更を避けるため工事計画の変更等を審議している。

上記の調査体制の下、資料館が平成15年度に実施した埋蔵文化財の調査は、下記のように試掘調査2件、立会調査9件、確認調査1件の計12件である。

表1 平成15年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m ²)	調査期間	本書掲載頁
試掘	基幹環境整備(煙突)	小串		76	8月1日～8月20日	10～12
試掘 立会	教育学部附属光小学校エレベータ 昇降路等新設	光		169	11月20日～12月24日、 1月22・28・29日、 2月9・10日、3月4日	14～32
立会	農学部附属農場ガス管漏洩修理(緊急)	吉田	OP-16、Q-15	12	11月25・26日	4
	教育学部附属養護学校給食調理員 専用トイレ新設	吉田	C-21	1.7	1月16日	5
	農学部環境観測実験棟 南側温室土中の機器搬出	吉田	P・Q-15	52	1月27日	5
	理学部校舎中庭通路屋根新設	吉田	N-19	5.8	2月12日	6
	理学部中庭あずまや新設	吉田	N-19	6.8	2月23日	6
	基幹環境整備(街灯新設)	吉田	F-19、G-13～15・18、 H-14、I-16・19、 L-12、Q-15	11.5	2月27日、3月19・23日	7、8
	教育学部附属山口幼稚園庇新設 山口小学校スロープ新設	白石		27.7	1月26日、2月12日	9
工学部本館改修	常盤		428	7月25日、11月13・23日	13	
確認	ポート部合宿所給排水整備	その他		80	2月16・18日	33

吉田構内(本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市大字吉田1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田3003所在)

立会調査6件を実施した。

農学部附属農場ガス管漏洩修理工事に伴う立会調査・基幹環境整備(外灯新設)工事に伴う立会調査では、遺物の出土はみられなかったものの、旧河川の埋土と考えられる土層を確認した。

農学部附属農場周辺では、過去の調査により縄文時代晩期の旧河川、古代の旧河川が検出されている。埋土中には当該期の遺物が多量に含まれており、吉田遺跡の古環境を復元する上で重要な資料となっている。

一方基幹環境整備(外灯新設)工事に伴う立会調査では、陸上競技場北側、体育館周囲、教育学部周囲の調査地点で旧河川もしくは遺構の埋土と考えられる土層が検出された。これらの調査地点の旧地形は谷状地形もしくは低地部であったものと考えられ、山口大学の吉田構内統合移転時に包含層および遺構面の攪乱をあまり受けていないため、埋蔵文化財が良好に残存している可能性が高い。

両立会調査地点周辺地での今後の施設整備等開発事業には、埋蔵文化財の保護に十分な注意を

払う必要がある。

その他の立会調査では、埋蔵文化財は確認されなかった。

白石構内(教育学部附属山口幼稚園：山口市白石3丁目1-2、同山口小学校：白石3丁目1-1、同山口中学校：白石1丁目9-1所在)

立会調査1件を実施した。

教育学部附属山口小学校スロープ新設に伴う立会調査では、遺物包含層の可能性のある堆積層が確認された。遺物の出土はなかったが、調査地点の南側では、過去の調査により遺物包含層、弥生時代の可能性が高い堅穴住居跡、古墳時代の土壌などが検出されており、今後とも埋蔵文化財の保護に注意が必要な地点と言える。

小串構内(医学部、同付属病院：宇部市南小串1丁目1-1)

試掘調査1件を実施した。

基幹環境整備(煙突)工事に伴う試掘調査は、エネルギーセンター棟西側地点を対象地として行ったが、旧海岸域の堆積層と考えられる砂層から土師器小片が出土したものの、良好な遺物包含層および過去の生活面等は確認されなかった。今回の調査と過去の調査成果から、調査地点周辺(小串構内南西部)では埋蔵文化財が存在する可能性は低まったと言える。

常盤構内(工学部：宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舍：同上野中町2658-3所在)

立会調査1件を実施した。

工学部本館改修工事に伴う立会調査では、造成



図1 山口大学吉田・白石構内位置図



図2 小串・常盤構内位置図

土下に地山を確認したが、遺構・遺物など埋蔵文化財は検出されなかった。調査成果から、本館付近は構内造成時の削平が激しく、過去に埋蔵文化財が存在していたとしても現状では消失しているもの判断される。しかしながら、常盤構内では過去にナイフ形石器が出土しており、また常盤構内の東には旧石器時代の遺物散布地として県内でも著名である常盤池遺跡が所在するため、構内各所今後とも継続的な調査が必要と言える。

光構内 (教育学部附属光小学校、同光中学校：光市室積8丁目4番1号)

試掘調査1件、立会調査1件を実施した。

教育学部附属光小学校校舎北側北西面で行ったエレベータ新設地点での試掘調査では、3面におよぶ遺構面が確認された。各遺構面の状況としては、第1遺構面では近世～近代にかけての遺構・遺物が、第2遺構面では古墳時代中期から後期と考えられる遺構・遺物が、第3遺構面では時期不明であるが柱穴と考えられる遺構が検出された。現地表面から各遺構面までの深度は、第1遺構面が25cm、第2遺構面が40cm、第3遺構面が70cmであった。

この調査により、小学校校舎周辺では現地表下の非常に浅い地点に埋蔵文化財が埋存していることが明らかとなった。そのため、立会調査となった地点でも慎重な地下掘削を行ったところ、遺構面および遺物を検出するに至った。

今回の調査により、光構内には少なくとも3時期におよぶ遺構面が残存することが確認された。光構内の立地が前面に海岸を、背後に丘陵を有していることから、旧地形の復元には慎重を要する。今後とも施設整備計画等掘削を伴う工事計画には慎重な対応が必要である。

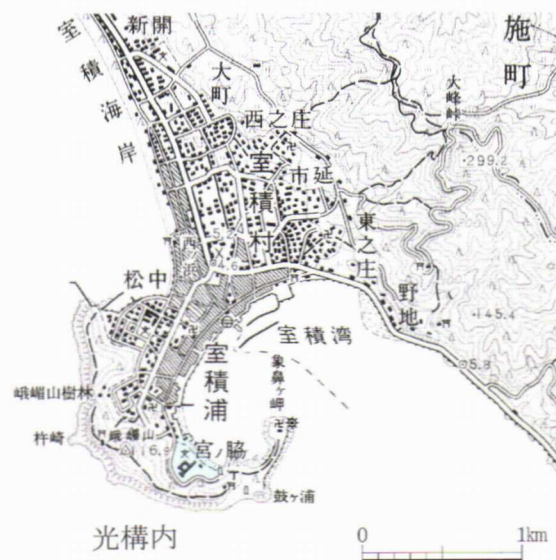


図3 光構内位置図